



「話すこと・聞くこと」Q&A

「話すこと・聞くこと」は、指導や評価が難しいとよく言われます。現場の先生方から多く寄せられる悩みや疑問に、
邑上裕子先生（新宿区立落合第四小学校）がご答えします。

Q 聞くことが苦手な子が多くて困っています。

A 「耳を鍛える」指導をし、「聞く姿勢」を教えましょう。

聞く力をつけさせるためには、「耳を鍛える」指導と、「聞く姿勢」を教えることが大切です。

「耳を鍛える」ために、低学年では耳をすまして「聞きひたる」体験をたくさんさせることよいでしよう。読み聞かせや言葉遊びなど、楽しみながらたくさん聞かせる場面を設定したいですね。中学年では、「聞



き取ってメモをする」という活動をさせます。新版の教科書には「聞き取りメモの工夫（四年下）」という教材がありますが、先生が文章を読んで、それを聞き取ってメモをするという練習をするよいでしよう。高学年になったら、校長先生のお話など、実際の場面で主体的に聞く練習をさせます。校長先生のお話が終わった後にメモをさせて、自分はどう感じたか、自己内対話をし書かせる指導をするよいと思います。それから、「聞く姿勢」を教えることも大事です。聞き手は、話し手に「聞いていますよ」というサインを送らなければいけません。低学年では、「話している人のお顔を見ながら、うなずきながら聞きましよう」と指導します。中学年では、わからないところがあつたら質問するところまでもつていきたいので、「質問があるときには、話が区切れたときにしましよう」などのルールを指導します。さらに高学年は、考えて聞く段階ですから、自分の新しい考えに結びつけられるように、質問や感想を考えながら聞くように指導します。

Q 「話すこと・聞くこと」の評価は、どのようにしたらよいでしよう。

A 話し合いをさせるときは、グループごとに、子どもたちのやりとりを丁寧に見て評価しましょう。

「話すこと」は音声が出ているので、わりと評価しやすいのですが、「聞くこと」は、子どもの内面的な動きなので評価がとて難しいですね。ですから、聞き取りメモや、聞いた後にわかったことをワークシートに書かせるなど、書くという表現におとして評価するよいでしよう。また、話し合いの場面では、聞いた後に反応ができてい、行動ができてい、などの態度面で評価することもできます。

話し合いをさせるとき、わたしは、「今日はこのグループ、明日はこのグループ」と決めて、分割して見ていくようにしていました。話し合いには、「相手」と「場

Q 一方的に話してばかりで、なかなか「話し合い」になりません。

A 話し合いは「受けて返す」が基本であることを、きちんと指導しましょう。

ということを理解させるのです。

話し合いは、「まとめていく」というよりも「つなげていく」つもりで進めましよう。例えば、「わたしもそうなんだけど…」「へえ、そうなんだ。ぼくはね…」「違う意見なんだけど…」「なるほどね」など、子どもたちが日常的に使う言葉で、相手の話とつないでいくような言葉を事前に示してあげるといいと思います。また、話し合いの進め方をイメージさせるために、わたしは黒板に吹き出しを貼っていく、という指導をよくしました。話し合いは、「受けて返す」を繰り返してつなげていくものだから、

Q これから求められる「話すこと・聞くこと」の力とは？

A 「話し合う」力です。

今回の学習指導要領では、「話し合うこと」が、指導事項として明確に位置づけられました。

スピーチ・講義のような話し手と聞き手がそれぞれ独立している場面よりも、話し手と聞き手が瞬時に入れ替わる「話し合い」の場面の方が、日常生活では圧倒的に多いですね。話し合う力は、これからますます求められていくでしょう。



模造紙で作った吹き出しを用意しておき、パッパッと貼って、「受けて返す」話し合いの流れを示す。

なるべく具体的なやりとりを例に示して学ばせ、子どもたちの話し合いを活性化させたいものです。

邑上裕子

東京都生まれ、小学校教諭、立川市教育委員会指導主事、東京都教職員研修センター統括指導主事等を
経て、現在、新宿区立落合第四小学校校長。
東京都小学校国語教育研究会会長。
文化審議会国語分科会委員、共著に「小学校国語学習指導実践辞典」（東洋館出版）など。

